

LMSを使った授業展開 と協調学習について

－21世紀の外国語教育－

英知大学CALLワークショップ

2007年3月7日

慶應義塾大学 境 一三

<http://web.hc.keio.ac.jp/~skazumi/>

本日の構成

- 前半(14:30 – 15:30) : 外国語教育を取り巻く状況と制度としての外国語教育が向かうべき方向について、またそこでLMSがどのような役割を果たしうるかを論じる。
- 後半(15:40 – 16:40) : LMS使用の実際。Moodleに触れ、その可能性について議論する。

目次(前半)

- 「知識社会」と生涯にわたる「学び」
- 社会的知識構成主義
- 言語使用者と言語学習者
- CALL/ TELL
- 社会的知識構成の場としてのLMS
- 豊かな学習環境
- 学びの場としてのLMS:具体例(慶應大学経済学部、ドイツ語)
- まとめ

「知識社会」と生涯にわたる「学び」

- 21世紀の日本社会
 - 知識社会(知、情報の爆発的増加と変化)
 - 長寿社会
 - 生涯学習(学校に所属しない時間の方が圧倒的に長い)
- 学校教育のコンテンツとしてのカノンの不在
- 「常に学ぶ者」=「自律的学習者」として生きる
- 学校の役割の変化

学校教育の役割

- 学校は一生続く学習を可能にする基本的な態度、方略、スキルを身につける場である。
- 自分の学習を設計し、教材や方法を選択し、常に自分の位置を確認できる自律的学習者を養成する。

知識はどのように獲得されるのか

- 知識は伝達できるか
- 行動主義
- 構成主義
 - 学習とは、外から来る知識の受容と蓄積ではない。新たなインプットにより、知識を精緻化し(再)構成する過程である。
 - 外からの情報は、既知の情報(知識)と関係づけ解釈され理解される。そのため、同じ情報を得ても、理解が人により異なることが起こりうる。

社会的構成主義

- 学習者に与えられた情報が、学習者に有意な(社会的)活動を通して精緻化され、一般化され、再構成されていく。
- 学習は学習者の相互行為によって成り立つ。
- 言語学習においては、コミュニケーション活動によって知が獲得される。

言語使用者と学習者

- 言語の使用者と学習者をまず基本的に「社会的に行動する者・社会的存在 (social agents)」、つまり一定の与えられた条件、特定の環境、また特殊な行動領域の中で、(言語行動とは限定されない)課題 (tasks) を遂行・完成することを要求されている社会の成員と見なす。(CEF, p. 24)

言語学習とは何か

- 言語学習 = 言語使用の一形態
- 言語学習者は社会的存在として、テキストを産出・受容しながら課題を解決する。
- テキストは特定の生活領域に属するテーマと関連する。
- 言語学習者は課題の成就を目指して最も有効と思える方略を使う。
- こうした行為を当事者自らが観察・モニターする中で、上述の能力はそれぞれ強化されたり、修正されたりする。

CALL/TELLは何のために

- CALL/TELLとはいったい何なのか？
- Computerに何をさせるのか？
- CALLはCALL教室がなければできないのか？
- CALLは省力化のためか？
- CALLは授業内、それとも授業外？

CALLの歴史(見取り図)

1960 - 80	1980 - 90	1990 -
<ul style="list-style-type: none"> ●行動主義的 ●チューターとしてのコンピューター ●コンピューター上の学習教材 	<ul style="list-style-type: none"> ●認知的 ●道具としてのコンピューター ●CD-ROM上の学習教材 	<ul style="list-style-type: none"> ●知識構成主義 ●コミュニケーション環境としてのコンピューター ●試行錯誤する場
<ul style="list-style-type: none"> ●閉じた課題 ●Drill, pattern-practice 	<ul style="list-style-type: none"> ●半分開いた教材 ●穴埋め, Cloze, 並び替え, テキスト再構成など 	<ul style="list-style-type: none"> ●開いた課題 ●リサーチ型学習 ●課題解決型学習 ●データ駆動学習

社会的知識構成の場としてのLMS

- 知の Transfer を超える
- 社会的構成主義
 - 既存の知が体験によって変容し新たな知となる
 - 知の獲得 = 社会的存在として他者と共に課題を解決するときに最大
- LMSは社会的知識構成を支援するもの

LMS の機能

- Forum、Wiki、Chatなど、協調作業の場
- 学習リソース(テキスト、画像、ビデオ、音声、リンクなど)の提供
- クイズ・テスト機能
- 学習管理機能(履歴など)

Online であるメリット

- authentic な情報流通が行われる「現実の場」としてのインターネットの一部
- 一次情報にアクセスするプロジェクト学習、リサーチ学習を促進する
- 目標言語に触れ、他者と関わり合いながら
 - 言語能力そのものと
 - 学習方略・技能を身につける

学びの場としてのLMS

振り返り、気づき、共に学習する

- 学習者が自らの学びを振り返る場:「学習日誌」(教員からのコメントとそれに対する学習者のコメント)
- 学習者が互いの学びを知り、意見を寄せ合う場: フォーラム(教員のつっこみ)
- 授業中のグループワーク、ペアワークなどの成果を 発表する場: フォーラム
- 学習者が授業を評価する場:「投票」(教員への フィードバック)
- 学習者が協働して学びの軌跡を残す場: Wikiによる ノート (cf. 2004年度の学習者によるノート: <http://www.skazumi.com/xoops/modules/bwiki/index.php?Gruppe%205>)

慶應義塾大学経済学部 1年次ドイツ語学習の例

- 第2外国語:1年次3コマ、2年次1コマが必修。境担当の1年次初習クラスは、境が2コマ、非常勤教員が1コマ担当するが、教材は同じものを使用する。
- 2006年度の教材:Hueber社 Schritte international 1, 2.
- 2006年度の進度:14課中12課まで。CEFのA1段階にほぼ到達。
- 学習・教授方法: Communicative Approach + Intercultural Approach
- 教室内ではペアワークやグループワークを多用した対面授業を行い、PCは補助的に用いる。PCによる問題練習などは授業外で行う。
- 授業言語:日本語+ドイツ語(徐々にドイツ語の割合が大きくなる)。

慶應義塾大学経済学部 1年次ドイツ語学習の例

- 学習日誌
 - 「フォーラム」モジュール
 - 「日誌」モジュール
 - フォーラム > 日誌
- 学習日誌の内容
 - 授業の感想
 - 学習の進捗状況の確認
 - 疑問の提示や教師に対する直接的な質問
- 教員と学習者、また学習者同士の意思疎通経路は複数あることが望ましい

学習者の問題発見

- 学生A: 新しい単語がたくさん出てきて大変そうです。また男性名詞・中性名詞・女性名詞の区別が面倒そうですね。「～zimmerは全て男性名詞」みたいに単純化してくれないのかなあ。歴史的な経緯で分けられているんでしょうけどついついそう思いました。
- 教員: いいところに気づきましたね。das Wohnzimmer, das Schlafzimmer, das Arbeitszimmer, das Kinderzimmer, das Badezimmer などから何が見えてきませんか？



プロセス

- 学生Aは、その日に学習したことを「振り返り」、ドイツ語の複合名詞の性には何らかの規則性があるのではないかと「気づいた」。
- それをフォーラムでクラスメートに公開した（「協調学習」）。
- 筆者の反応は、例を示すことで帰納的な「規則の発見」を誘導することであった。
- 次の授業時間に筆者が複合語の性の決定法を説明するための導入となった。
- フォーラム上では明示的な学習者間の協調作業はなかったが、クラスでのフォローアップを含めて、全体としてみた時には協調学習が成功したと言えるのではないか。

まとめ

- LMSは豊かな学習環境を創出する。
- LMSは教室の内と外をつなぐ。
- LMSは気づきの実践の場となる。
- Forumは学習者と教員の発表の場であり、相互の刺激の場となる。
- ICTの活用により、プロセスと結果を共有する。
- ICTの活用により自動化されない教育が促進される。